

平成 31 年度沖縄県認知症支援推進事業  
若年性認知症支援者研修会 南部地区開催 報告書

1. 研修会名：「平成 31 年度沖縄県若年性認知症支援推進事業 若年性認知症支援者研修会」
2. 目的：若年性認知症の一人ひとりが、その状態に応じた適切な支援が受けられることを目的とする。
3. 主催：沖縄県（受託 特定医療法人アガペ会）、 共催：認知症疾患医療センター
4. 対象：若年性認知症の初期対応相談窓口職員（市町村役場担当窓口職員・地域包括支援センター職員・認知症地域支援推進員・認知症初期集中支援チーム員・介護支援専門員・医療機関相談員・介護保険事業所の相談員など）を対象とする。
5. 方法：平成30年度作成 本人・家族のための若年性認知症支援ハンドブック第二版（沖縄県）並びに支援者のための若年性認知症支援ガイドブック（沖縄県）をテキストとして配布し、支援内容について沖縄県若年性認知症支援コーディネーターが説明を行う。
6. 開催地区並びに開催日、会場について

| 開催地区   | 開催日及び時間                             | 会場と定員                                       |
|--------|-------------------------------------|---|
| 本島南部地区 | 2019年5月27日（月）<br>14時～16時（受付13:50から） | 沖縄県総合福祉センターゆいホール<br>定員150名（那覇市首里石嶺町4-373-1） |

7. 参加費：無料
8. 申し込み方法：専用申し込み用紙あり。用紙のない方は、開催地区を明記したうえで、氏名、所属先、連絡先を記入しFAX（098-943-4702）まで。  
申し込み期間：平成31年4/1～各地開催日の前日まで。先着順とした。
9. テキスト：当日配布。
10. プログラム

司会進行・講師：若年性認知症支援コーディネーター

内容：ハンドブック、ガイドブックに沿って説明し、注意事項を伝達する。

|   |          |     |                                |
|---|----------|-----|--------------------------------|
| 1 | 県の現状     | 10分 | はじめに、頁説明                       |
| 2 | 医療       | 20分 | 気づき、診断されたら、医療との連携、病態について       |
| 3 | 制度       | 40分 | 利用できる制度について、障害者福祉制度、介護保険       |
| 4 | 仕事       | 15分 | 仕事について                         |
| 5 | 子ども・車・生活 | 15分 | 子どもの支援、車の運転について、生活について、これからのこと |
| 6 | 相談窓口     | 10分 | 交流会、家族会の紹介、相談窓口、資料について         |

11. 広報

2019年4月1日 北部圏域へ認知症疾患医療センター宮里病院より発信  
県高齢福祉課発信：FAXにて県内資料福祉関係機関

12. 事前申し込み状況 申し込み者 132名

13. 当日の様子 当日参加者数 125名

内訳：医療6名、介護保険事業84名、行政11名、包括20名、介護家族1名、無記名3名  
運営：疾患センター5名（サマリヤ人病院3名、オリブ山病院2名）

#### 14. 内容（特にお伝えしたこと）

相談対応の現状に対応した項目となっており、各内容については、ワーキングチームによる見解並びに確認作業によって完成されたことをお伝えした。

|   |             |  |
|---|-------------|--|
| 1 | 県の現状        | ガイドブック P1 を読み上げる。若年性認知症支援コーディネーターの支援始まり、単身者が多い現状と、それに伴い介護者も高齢で支援が必要な状況であったことなどを説明。手続きの詳細など情報も必要となり、今回の支援者向けガイドブック作成に至ったことを説明。  |
| 2 | 医療          | 物忘れ＝認知症ではない。内科疾患も多い。気づき方は様々であるが、MC I も診断される。支援者の自己判断ではなく、エピソードをしっかりとめ、医療へ繋ぐことが望ましい。医療との連携で、かかりつけ医への相談後、鑑別診断が必要な場合には、認知症疾患医療センターへ相談という手続きを説明。認知症疾患医療センターへの繋ぎ方や鑑別診断に伴う費用についても事前に尋ねることも助言が必要。経済的課題による医療離れがあることを支援者は認識してほしい。ガイドブック P5 の疑いチェックリストの紹介。ワンストップとして設置された若年性認知症相談窓口の紹介。若年性認知症支援コーディネーター役割の説明。   |
| 3 | 制度          | 働き方の見直しに伴い減収するため、制度を駆使することは必須。まず自立支援を活用し、できれば同時に精神障害者保健福祉手帳の活用が初期対応として理想。手帳の優遇措置とその活用を説明。ガイドブック P18 その他の制度について説明。傷病手当金、障害年金について仕組みを説明。併給調整のリスクを把握し説明することが求められる。いきなり介護保険でない。障害者総合支援法を活用し、働く意識を継続することも重要。特に平成 30 年度新設の自立生活支援の展望について紹介。介護保険については最近の傾向である暫定のリスク、ガイドブック P32 の有償ボランティアについて、社会参加活動であることの説明。障害者総合支援法と介護保険の併用と、移行時期の見極めについて今後の課題を伝える。 |
| 4 | 仕事          | ガイドブック P25 表を説明し、若年性認知症の人の働き方について説明。職場との調整方法並びに話し合う内容について、P26 チェックリストの活用を紹介。治療と仕事の両立支援について説明。  |
| 5 | 子ども・車・生活・財産 | 子どもの支援について、親の手帳で奨学金申請へ影響ある。奨学金については常に創設の動きあり、状況をチェックしてほしい。車の運転：認知症診断、認知症薬開始と法制度の説明。認知症者の運転技術、車両保険加入確認の必要性を説明。県警本部より参加された警部へ直接、会場の皆さんへ現状を報告頂いた。<br>生活について、これからのことについて本人への指導として、ハンドブック P25～P28 活用を紹介。財産管理についてガイドブック P39 を読み合わせ。  |
| 6 | 相談窓口        | 交流会、家族会の紹介、相談窓口、資料について説明   |

(質疑応答)

- ・地域包括より警察本部のかたへ：出前講座を教えてください

返答：交通安全課のなかの企画班が、安全講話を用意している。利用してほしい。

(認知症疾患医療センターより)

- ・受診のメリットについて、対応者はしっかり説明してほしい
- ・成年後見制度 P39 の表で「判断能力が欠けている」の表記について不十分である。「支援を受けて契約等を理解・判断できるか」に修正してほしい。

15. アンケート結果： 回答 93名 回収率 74.4%

問：ハンドブック・ガイドブックの内容（仕上がり具合）について教えてください

|        | 大変良い  | 良い    | ふつう | 悪い | 大変悪い | 無記名  |
|--------|-------|-------|-----|----|------|------|
| ハンドブック | 60.2% | 35.5% | 0%  | 0% | 0%   | 4.3% |
| ガイドブック | 63.4% | 33.3% | 0%  | 0% | 0%   | 3.2% |

問 ハンドブック・ガイドブックの次回の改定時に掲載が必要と思われることについて教えてください。

ハンドブックについて：

- ・本人、家族が楽しめる場所（カフェや家族会以外）など載せてほしい。例えばスポーツなどもサークル活動など
- ・事例があると、もっとわかりやすいかと思いました。ケースはそれぞれですが、多いケースや何パターンか、絵を使うなど・・・
- ・診断されたとき、どこに、どんな順序で手続きをしたらいいのかの大まかな流れをわかりやすくのせてほしい。○→○→○など図で・・・
- ・字を大きくしてほしい。
- ・わかりやすい内容に加え、項目が多いので、1冊ですませられてもと思う。
- ・例題、事例などあれば、掲載してほしい。サービス導入しての課題の解決など。
- ・生活の工夫の項目を少し多くしてほしい。（在宅での生活に取り入れやすい工夫の仕方がとてもわかりやすかったので・・・）
- ・本人が認知症の疑いがあるが受診してくれない。本人へどのように説明し納得して頂くか（例があるといい）
- ・若年性認知症になったら、何から始めたらよいかのチェックシートがあればわかりやすいと思います。（家族用・本人用）

### ガイドブックについて：

- ・ 少子高齢化が進み、独居者が増えていくと思うので、簡単な自身でできる助言を付け加えてほしい。
- ・ 事例があるともっと実感しやすい。
- ・ 親の介護をしていた人が若年性認知症になってしまい、他の家族が介護できない場合に、サポートできる支援機関などがあれば、載せてもらえると勉強になります。
- ・ 事例があるともっとわかりやすいかなと思いました。
- ・ 認知症の症状の説明も、細かく書かれたものも導入されていたら、良いかなと感じた。
- ・ 項目別、制度について、細かく記載されているのでよかったが、家族・本人の状況によって使う制度のメリット、デメリットもあり、その内容がもう少し分かれると助かります。
- ・ 所得保障について、もう少し詳しく説明があってもよい。
- ・ 成年後見制度、意思決定支援の内容を充実させてほしい。
- ・ 利用できる制度等、年金制度については個別対応が早期にできる職場でも教えてくれる人材関係も必要。

### 感想：

- ・ (認知症の親をもつ子どもについて) 学校や地域の理解支援、スクールカウンセラー等の連携が必要だと思います。ガイドブックについて、内容がとても掘り下げられていて、素晴らしいと感じています。介護家族は病の進行の状況によって抱える問題が変化しますので、常にこのガイドブックを支援者のかたには、必携して頂き、その時折に活用頂けたら、必ず何か糸口が見えてくると思います。
- ・ 運転や道迷いなど、本人や家族、支援者の抱える課題があると思います。今後そのような研修会を希望します(今日のように警察も参加で)
- ・ このガイドブックはクリニックや脳神経外科の医師のもとにも届けられていますか？診断つけることが多いが、その後のフォローがされていないままの方が多くのように思います。
- ・ 発症からの不安や、お金のことを含め、わかりやすいと思います。支援するにあたって、必要なこと、注意することがわかりやすくて、見やすいです。ぜひ、使っていきたいです。
- ・ このようなガイドブックを作成いただき、丁寧に説明までしていただいて、大変わかりやすかったです。
- ・ 知らないことが多く、さらに勉強していけたらと思いました。
- ・ (ガイドブックについて広報などの) ポスターがあるといいですね。
- ・ 分かりやすく問い合わせ先も入っているので、活用しやすい内容だと思う。
- ・ (ガイドブックについて) 細かくわかりやすい内容です。若年性認知症の方の関わりに必要です。
- ・ 利用できるサービス例や問い合わせ先が記載されているのがとっても良いと思います。

## 16. 主催者の所感

参加数からも多くの関心を頂いた。特に「免許の件を通して感じる若年性認知症者の支援の在り方について学びたい」と、警察本部からも参加頂き、また会場からの質疑応答にも対応頂いた。各立場で、支援者の顔が見える会となったのではないかと思われた。アンケート結果から、事例の掲載やわかりやすさを求める図表の増加が求められていることがわかった。次回の改訂につなぎたい。

以上